

新技術『活用効果調査表』 作成の手引きとコメント事例集

令和7年7月

九州技術事務所

本資料では、工事等で新技術を活用した結果を正確に記録し、その技術の評価を明確に伝えるための「活用効果調査表」の作成方法を解説し、具体的なコメント事例を紹介します。

適切な活用効果調査表を作成することで、新技術の評価が適切に行われ、NETISの普及や改善につながり、より良いインフラ整備が実現します。

(1) 目的

活用効果調査表は、NETISに登録された新技術を各現場で活用した結果をまとめた報告書です。

新技術の効果を客観的に示し、他の発注者や施工者が技術導入の際に参考となる情報を提供することが目的です。

(2) 役割

- 技術の効果を定量・定性データに示すことで、客観的な評価が可能になります。
- 発注者や施工者が活用しやすくなるよう、具体的なメリット・デメリットを記録します。
- 技術の改良や普及の判断材料として活用されます。

新技術に登録された技術の価値は、実際に活用して得られた効果により証明されます。

調査表の精度が高いほど、技術の信頼性が増し、新技術の開発や普及・促進につながります。

活用効果調査の流れ

工事の概要

- ・新技術活用計画書
対象工事の内容、活用する新技術等を記載

活用の目的

- ・新技術活用計画書
新技術を導入する理由、従来技術との違いや期待する効果を記載

適用条件

- ・実施報告書
現場導入後の新技術の適用範囲や施工数量等を記載

活用の効果

- ・活用効果調査表
現場活用における新技術の効果や従来技術との比較等を記載

活用効果調査表は、「効果調査」、「調査の視点」、「コメント」から構成されており、それぞれが整合するよう作成する必要があります。

評価については、NETIS申請情報の従来技術と比較した評価となります。

効果調査				
従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
☐ 1	☐ 2	☐ 3	☒ 4	☐ 5
☐ 当該技術に関連しない項目である				

【重要なポイント】
導入効果を5段階(1～5)で評価し該当する箇所を選択する

調査の視点
優れていた点、劣っていた点の項目に該当するものを選択する

優れていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- ☐ 作業人員が減少したため
- ☐ 仮設費が減少したため
- ☐ 施工日数が短縮したため
- ☐ 施工量が想定数量より多かったため
- ☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- ☐ 作業人員が増加したため
- ☐ 仮設費が増加したため
- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 施工量が想定数量より少なかったため
- ☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

コメント 全角1000文字以内。

効果の具体的な内容を記載する

【重要なポイント】
コメントに記載する内容は、「効果調査」、「調査の視点」とした理由を記載し、チェックした内容と必ず整合を図ってください。
「優れていた点」「劣っていた点」の両方にチェックした場合は、どちらに重点をおいて評価したのか判るように記入してください。

【重要なポイント】
効果調査の5段階評価は、「優れていた点」「劣っていた点」に該当する項目(数)の多さだけで評価するのではなく、工事全体において効果が大きかった項目により評価してください。

誤字チェック 凡例： チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

- 活用効果調査表は、NETIS申請情報に記載されている「比較する従来技術」と「新技術」の特性を十分理解したうえで比較して作成します。

新技術活用計画書

 画面を閉じる
  印刷・プレビュー
  修正依頼
  登録

- 登録内容に関するお問い合わせは[こちら](#)
- システム操作方法に関するお問い合わせは[こちら](#)

技術活用提案日 「技術活用提案日」を変更したい場合は、上部にある「コリンズ/テクリス番号・連

登録番号(技術活用提案日時点) - A ▼

新技術名称

比較する従来技術

組織機関名 九州地方整備局

部署・事務所名

工事名

活用等の型

登録番号(最新) - A ▼

従来技術は「NETIS申請情報」より自動で転記される

※「活用等の型」の選択にあたっては、下記「新技術活用スキーム実施要領」の「3.3 新技術活用スキーム実施要領」

NETIS申請情報

概要	従来技術との比較	特許・審査証明	単価・施工方法	問合せ先・その他	詳細説明資料
活用の効果					
比較する従来技術 ・ 深層混合処理工（スラリー攪拌工）手動打設					
項目	活用の効果				
経済性	向上	同程度	低下 (-7.7%)	従来技術と比較し	
工程	短縮	同程度 (0%)	増加	—	
品質	向上	同程度	低下		
安全性	向上	同程度	低下		
施工性	向上	同程度	低下	従来技術と比較し	
周辺環境への影響	向上	同程度	低下	る。また、熟練度	

「比較する従来技術」と「新技術」の特性の比較は、NETIS申請情報の「活用の効果」が参考になります。

活用効果調査6項目の全てについて評価します。

- ✓ 活用効果調査表の**視点**は、工事目的物のための**施工技術(工法)**を**基本**としたものです。
- ✓ 活用する技術が、工事看板類(任意仮設)やソフトウェア(施工管理システム)等の場合で、**工事目的物に直接影響を与えない技術の場合**は、活用技術に応じて**柔軟に調査**を行います。

活用効果調査表記載にあたっての主な留意点

- 経済性** : 当該現場で要した直接工事費で比較を行います。
技術特性に応じて間接工事費を含む比較も行います。
- 工 程** : 当該現場で要した施工期間で比較を行います。
技術特性に応じて準備期間等を含む比較も行います。
- 品質・出来形** : 目的物の品質や出来形について比較を行います。
(性能および耐久性、現場の管理項目等)
- 安全性** : 当該現場施工中の作業上における比較を行います。
施工後の目的物の安全性(性能等)は含みません。
- 施工性** : 当該現場施工中の作業上における比較を行います。
- 環 境** : 当該現場施工中の作業上における比較を行います。

当該技術に関連しない項目である：

従来技術と比較しにくい項目もありますが、特段の優位性がない場合や、違いがない場合には、「同等（3点）」と選択して、「当該技術に関連しない項目である」は選択しません。

【適切ではない例】

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5

☒ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

・工程には影響を与えないため、当該技術に関連しない項目である。

【修正後】

効果調査

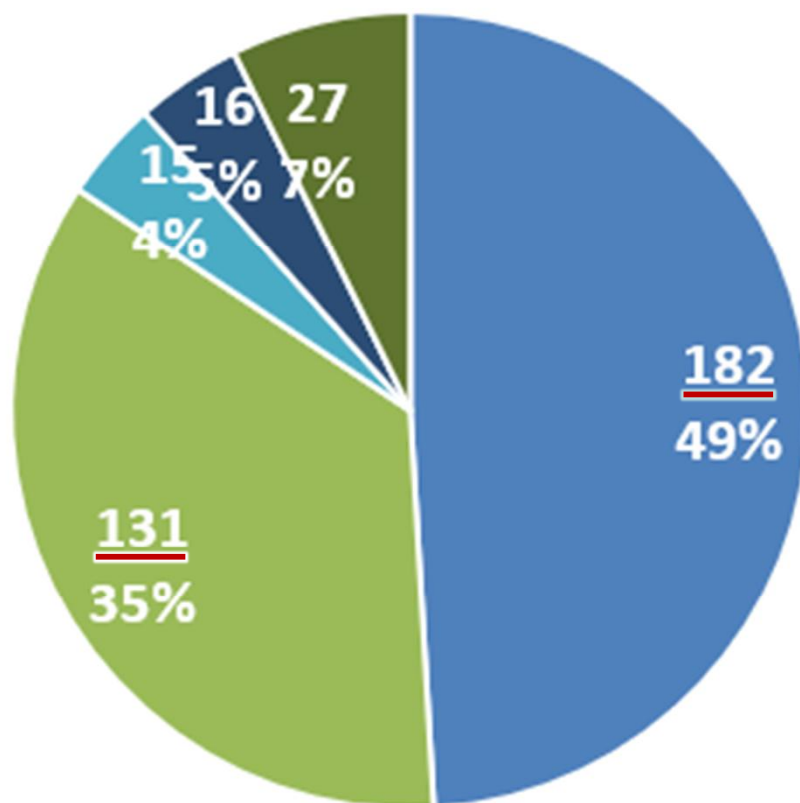
従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
☐ 1	☐ 2	☒ 3	☐ 4	☐ 5

☐ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

・工程には影響を与えないため、**従来技術と同等である。**

「5段階評価とコメントの不整合」、「新技術活用計画書の活用理由に対して活用効果調査表の評価が不整合」の記載誤りが多く見られます。



■ 6項目の5段階評価とコメントの不整合

■ 新技術活用計画書の活用理由に対して活用効果調査表の評価が不整合

■ 活用の型の間違い

■ 調査の視点のチェックの間違い

■ その他(工事名・施工者名等)

「5段階評価とコメントの不整合」の事例

【適切ではない例】

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
☐ 1	☒ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5

☐ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

効果調査とコメントが不整合である

・経済性は、機械経費や作業人員が減少したために優れている。

【修正後】

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
☐ 1	☐ 2	☐ 3	☒ 4	☐ 5

☐ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

効果調査とコメントが整合している

・経済性は、機械経費や作業人員が減少したために優れている。

「活用計画書の活用理由に対して活用効果調査表の評価が不整合」の事例

活用計画書の活用理由

活用理由

※チェックボックスにチェックがない場合、入力されたコメントはNETISに登録されません。
※チェックボックスにチェックがある場合、コメント欄は入力必須です。

☐ 経済性☐ 工程☒ 品質・出来形

耐久性が向上するため

【適切ではない例】

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○ 1	○ 2	○ 3	○ 4	○ 5

☒ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

品質・出来形は、当該技術に関連しない項目である。

活用計画書の活用理由を記載しているが
5段階評価がされていない

【修正後】

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○ 1	○ 2	○ 3	● 4	○ 5

☐ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

品質・出来形は、従来技術と比較して耐久性が向上したため優れている。

活用計画書の活用理由と5段階評価が
整合している

調査表に不備がある場合、NETISから修正依頼のメールが届きます。
メール件名は **【NETIS】活用効果調査表修正依頼** です。

NETIS システム

【NETIS】活用効果調査表修正依頼 : QS-

令和6年度

工事

2025/02/19

活用効果調査表 確認職員または委託者様 活用効果調査表の内容修正依頼が届いております。以下のリンクが

メールに記載されたリンク先を開き、
コメント欄 及び **添付PDF** を確認してください。

施工者の調査表に不備がある場合は、
発注者 から 施工者へ修正依頼を行ってください。

コメント欄 (確認者のコメント (赤)、申請者のコメント (青))

2024/08/30 15:54:53

[20240826-221331348.jpg](#)

☐ コメント内容確認済

2025/03/07 14:31:27

【施工者用】

工程 : コメントが同等であれば、関連しない項目でなく、効果調査「3」でないでしょうか。

安全性 : コメントが同等であれば、関連しない項目でなく、効果調査「3」でないでしょうか。

※添付PDFを参照ください。

※施工者に差し戻しをお願いします。

06-0582 QS-

令和5・6年度

工事.pdf

コメントを編集

コメントを削除

☐ コメント内容確認済

新技術の活用時に活用効果調査を実施し、蓄積された活用効果調査表を基に各整備局の「新技術活用評価会議（有識者会議）」において、技術特性等を評価しています。

調査及び評価に際し、点数とコメントが一致しない等の事象が懸念されるため、活用効果調査表に記入するコメントの事例をまとめました。

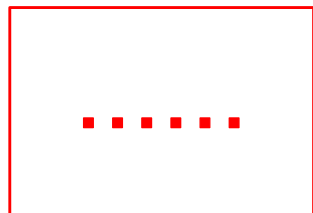
施工者及び監督職員の皆様が活用効果調査表を作成する際に、ぜひご活用ください。

- コメントは、評価に至った理由である を具体的に記入し、文末は、下記の文例を参考にしてください。

効果調査が「5」の場合

経済性
工程
品質・出来形
安全性
施工性
環境

は、



という理由で

非常に優れている。
極めて向上した。
大幅に〇〇を削減できた。
特に〇〇が高い。
〇〇及び△△が非常に減少した。
〇〇が大幅に減少した。

効果調査が「4」の場合

経済性
工程
品質・出来形
安全性
施工性
環境

は、



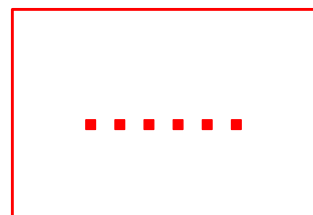
という理由で

優れている。
向上した。
やや優れている。
少し向上した。
僅かに〇〇を削減できた。
〇〇がやや減少した。

効果調査が「3(同等)」の場合

経済性
工程
品質・出来形
安全性
施工性
環境

は、



という理由で

同程度である。
変わらない。
ほぼ同等と考える。
影響が無かった。
問題はない。
大差はない。

- コメントは、評価に至った理由である を具体的に記入し、文末は、下記の文例を参考にしてください。

効果調査が「2」の場合

経済性
工程
品質・出来形
安全性
施工性
環境

は、

.....

という理由で

劣る。
低下した。
やや劣る。
少し低下した。
僅かに〇〇が増加した。
〇〇がやや増加した。

効果調査が「1」の場合

経済性
工程
品質・出来形
安全性
施工性
環境

は、

.....

という理由で

非常に劣る。
極めて低下した。
大幅に〇〇が増加した。
特に〇〇が低い。
〇〇及び△△が非常に増加した。
〇〇が大幅に増加した。

【経済性】

- ・新技術の導入コストだけでなく、工期短縮等に伴う、人件費、管理費、仮設費用等のコストを含めて総合的な観点から評価をお願いします。
- ・維持管理に関連する技術は、ランニングコストも考慮して比較してください。

従来より
優れている

同等

従来より
劣っている

評価点	コ メ ント
5	・本技術で施工した結果、従来技術と比較して大幅に機械経費や作業人員が減少し非常に経済的であった。 ・補修工事において、塗布工程が減少したことにより大幅な工期短縮となり経済的であった。 ・新技術の材料を使用したことにより、コンクリートの下地処理において高圧洗浄が不要となり経済性が非常に向上した。
4	・現場作業員の出退勤時刻の記入と本人確認に係る手間が低減された。 ・燃料費(ガソリン)に比べ、電力費用の方が安価となった。 ・シートの敷設により除草作業が無くなり、維持管理費が減少した。
3	・経済性は従来技術と同等であった。 ・従来技術と金額に差がなかった。 ・仮設費が削減されたが、賃料が高価となったため同等である。
2	・安全性を考慮し設置したが、リース費用が高価となった。 ・製品単価が増加した。 ・ICT費用が加算されるため、経済性は劣っている。
1	・従来技術で行わない作業があり、材料費や労務費が追加となった。 ・特殊機械により機械損料が増加し非常に劣っている。 ・機器賃料やシステム使用料が増加し経済性に劣る。

【工程】

- ・技術導入による施工期間で評価をお願いします。
- ・ICT等のシステムや機械のみの活用においても、施工日数を考慮して比較してください。

従来より
優れている

同等

従来より
劣っている

評価点	コ メ ン ト
5	・本技術による施工で型枠工・コンクリート養生期間の作業日数が大幅に減少した。 ・専用の部材を使用することにより組み立て工数が削減できたため、作業日数が大幅に短縮となった。 ・従来技術の単管パイプによる取付枠の組立解体作業が無くなり、大型土のう袋へ投入が容易になり製作時間短縮。
4	・進捗状況を日々管理することができ、工程把握が容易となり日数が減少した。 ・黒板記入の時間が削減できたため、工事写真撮影時間の短縮となった。 ・リアルタイムで施工が確認でき、大口径による施工、作業員による杭芯誘導が不要なため施工性は向上し工期短縮となる。
3	・工程は従来技術と同等であった。 ・作業内容が類似しているため同等。 ・進捗状況が変わらなかったため同等と判断した。
2 1	・従来の肩掛式草刈機より刈る速度が遅かった。 ・3次元データを新たに作成する日数が生じる点で従来技術よりやや劣る。 ・排水性舗装の遮熱性塗料の塗布日数分、施工性が低下した。

【品質・出来形】

- ・施工性の視点(現場の施工や作業が容易等)による評価ではなく、目的物の品質や出来形が向上する視点(耐久性向上・現場の管理項目等)で評価してください。

従来より
優れている

同等

従来より
劣っている

評価点	コメント
5	・新旧コンクリート打ち継ぎ面の付着を防止できたため、ひび割れや剥離が抑えられた。 ・注入用グラウトにより狭隘な未充填箇所の充填性による品質が大幅に向上した。 ・引張強度・伸度・耐摩耗性に大幅に優れている。
4	・マーキングの対候性が良く、ボルトの緩みが目視確認できた。 ・衝撃の吸収力が増加し、耐久性が向上した。 ・出来形管理における、手入力が無くなったことでヒューマンエラーが無くなった。
3	・品質・出来形は従来技術と同等であった。 ・仮設材により耐久性は同等であった。 ・モニターによる深度や吐出量の進捗管理ができたが、品質・出来形について同等と判断した。
2 1	・新技術はソーラー発電方式であり、天候が悪い日が続くと電力不足になるためやや劣る。 ・刈残しがあり、2度刈となったため出来形の精度は劣る。 ・製品がメッシュタイプにより、大型機械で締固めが行えず、出来形管理に差異が生じた。

【安全性】

- ・当該現場施工中における効果で評価をお願いします。
施工後の新技術の導入効果は、評価しないようお願いします。
- ・安全管理のしやすさについては、施工性で考慮してください。

従来より
優れている

同等

従来より
劣っている

評価点	コ メ ン ト
5	・無人で監視でき、危険性のリスクが大幅に減少した。 ・モニターが運転席と外部に設置されているため、常時確認・把握が可能となり安全性が大幅に向上した。 ・警報機能を持たせたことで、センサーが構造物と接触すると音と光で注意喚起を行い危険性が大幅に減少。
4	・新技術はソーラー充電式により、火気の使用がないため安全である。 ・重機取付型カメラにより、安全性が確保できて作業がスムーズに行えた。 ・衝撃吸収力が向上し、危険性が減少した。
3	・安全性は従来技術と同等であった。 ・従来技術と比較して活用内容が類似しているため同等。 ・視認性は良くなるが、軽量により安定性が低下するため同等。
2 1	・歩きながらの撮影等があるため、足元の確保が難しい場合がある。 ・二次製品(重量物)を使用するため重機災害の危険性が増加する。 ・シートの処置を必要とする液体を塗布する作業が発生するため劣っている。

【施工性】

- ・当該現場施工中における効果で評価をお願いします。
- ・工程短縮に伴う2次的な事象による作業員の減少は、工程で評価してください。

従来より
優れている

同等

従来より
劣っている

評価点	コメント
5	・従来はオペレーターと誘導員2名での作業が、オペレーター1人で現地測量位置と機械データの整合性が図れた。 ・従来技術に比べ、重量が軽い・狭隘な場所でもフレキシブルな組み立てが可能のため、熟練工が少なくても向上する。 ・泥落とし装置により泥の掻き出しが不要になり、作業員の作業の時間短縮で施工性が向上。
4	・本体が小型・軽量のため作業員1人で運搬・設置ができた。 ・クラウドによる電子データ管理により、最新データの確認が随時行えたため施工性がアップした。 ・圧縮空気の安定供給が可能となり、施工性が向上した。
3	・施工性は従来技術と同等であった。 ・作業が容易になったが、機器設置の手間が増加したため同等である。 ・従来技術と比較して活用内容が類似しているため同等。
2 1	・塗布に要する作業員の手間が増加したため劣っている。 ・断面修復部の施工面積が狭く施工に手間が掛かった。 ・機械の誤作動や起動時に動かないことが多くがあり、運転手の手間が増えた。

【環境】

- ・当該現場施工中における効果で評価をお願いします。
- ・工程短縮に伴う2次的事象による振動・騒音の減少は、工程で評価してください。

従来より
優れている

同等

従来より
劣っている

評価点	コ メ ン ト
5	・交通渋滞緩和等、近隣住民・地域へ配慮したきめ細やかな車両運行が可能となった。 ・バイオマスシートにより、温室効果ガスが削減する。 ・発電機の排気ガスや騒音が発生しないため、周辺環境への影響を抑制できた。
4	・充電式のため排ガスがなくなり、CO2排出量が減少し環境への影響が抑制できた。 ・内部からの視認性が良く、通気性が向上し環境が改善した。
3	・環境は従来技術と同等であった。 ・作業環境の改善につながるが大差はない。 ・設置条件や作業手順等が変わらないため同等であった。
2	・コンクリート殻の発生量が増加したため劣っている。
1	・施工機械の振動が発生した。 ・コンクリート二次製品を現場加工したため、騒音・粉塵が発生した。

活用効果調査に係る様式は、新技術活用計画書、実施報告書、活用効果調査表（発注者用、施工者用）で構成されています。

新技術活用前に新技術活用計画書、活用後に実施報告書・活用効果調査表を作成してください。

活用効果調査表5件以上で大学、産業界、研究機関等の有識者の委員からなる評価会議において、従来技術に対する優位性等が確認され、有用な技術は「活用促進技術」として指定されます。

活用効果調査は、新技術活用スキームにおいて大変重要なものです。適切な調査をお願いいたします。

NETISに関するお問合せ：九州技術事務所 技術活用・人材育成課

Mail：qsr-kyugi_gijyutsu01@mlit.go.jp